

# L'aile d'Howl



【ライル・ドウル：ホウルの翼(仏語)】

September 2015

## 男子・矢巾中が全国中学校準優勝の快挙達成☆おめでとう!!

「いわて花巻ハンドボール夏の陣2015」を締めくくる第44回全国中学校大会が、8月21日に開幕しました。24日まで行われた本大会では、男女とも日本一をかけて熾烈な戦いが繰り広げられました。岩手県からは、開催地代表として男子・矢巾中、女子・矢巾北中、そして東北予選を勝ち抜いて出場権をゲットした男子・大宮中、女子・厨川中が出場し、地元の大声援を背にハンドボール王国いわての存在感を十二分に発揮してくれました。その中で、男子・矢巾中が岩手県勢、そして東北勢として初の決勝進出を果たし、見事準優勝の栄冠を勝ち取りました。それでは、岩手県勢の躍動の様子を振り返ってみましょう。



＜女子・厨川中＞ 初戦となった2回戦で当たったのは、今大会ベスト4入りを果たした朝明中(三重県代表)。谷藤悠キャプテンを中心に、冷静なゲーム展開に持ち込んだ結果、両者一歩も譲らない接戦に。同点のまま試合が終盤に突入し、延長戦になるかと思われた後半ラスト5分、ここで朝明中に連続得点を許し、21-23という僅差のままゲームセット。惜しくも全国大会の舞台で勝利を掴むことができませんでしたが、全校応援の中ではつつつとしたプレーをしてくれた選手たちは本当に素晴らしかったと思います。

＜男子・大宮中＞ 東北予選では、同じ岩手県代表の黒石野中との決勝を経て、今大会への出場を決めた大宮中。こちらも全校応援を背に受けて、全国大会のコートに立ちました。強豪である岩国中(山口県代表)との初戦、積極的な攻めで勢いに乗る大宮中は13-9と前半をリードして折り返します。しかし、簡単に勝たせてくれる相手ではなく、後半の追い上げに合い、試合は延長戦に突入。最後は相手の粘り強さに引き離され、31-27で惜敗。敗れはしたものの、大応援団のバックアップのもと楽しい試合ができた、と佐々木キャプテンは胸を張りました。

＜女子・矢巾北中＞ 全体に小柄なチームながらもその機動力を活かし、初戦で凌雲・光成(北海道代表)を破ると、続く3回戦で対戦したのは全国大会常連校の平針中(愛知県代表)。岩手県勢初のベスト4入りを目指して試合に臨みますが、相手は前日の試合で12得点を挙げたエースの廣田星莉キャプテンを押さえる戦術に出ます。これが効いて、序盤は平針中に大きくリードされますが、なんとか4点差で後半に突入。粘り強い攻撃で逆転を狙う矢巾北中ですが、ここぞという場面で平針中が連打で突き放し、19-13で敗退。全国ベスト8で今大会を終了しました。試合後、笑顔で応援団に挨拶をしたメンバーでしたが、振り返った瞬間大粒の涙を流し号泣。ひたむきに頑張った3年生たちの背中を見て、今度はきっと後輩たちが更に上を目指してくれることと思います。

＜男子・矢巾中＞ 春の全国中学生大会ではベスト16入り。岩手県勢として男子初のベスト8以上を目指したい今大会、2回戦で市川中(千葉県代表)を相手に35-23と快勝すると、続く3回戦でも豊中一中(大阪府代表)に序盤からリードを許すことなく26-19で勝利。ついに準決勝進出した矢巾中は、石川県代表・板津中と対戦。前半いきなり4-1と相手に先行されるも、中盤落ち着きを取り戻して徐々に点差を詰め、1点差まで詰め寄って前半終了。後半開始早々にキャプテン安倍凜太郎選手が同点打を叩き込むと、勢いに乗った矢巾中はリードを少しずつ広げていきます。しかし、板津中も連続得点により、後半残り5分で1点差まで迫りますが、最後に踏ん張った矢巾中が26-23で薄氷の勝利。涙を流して勝利を喜ぶ選手たちもいました。さあ、地元開催の全国大会でいよいよ決勝の舞台へ！

場内に地元応援団の大声援が響き渡る中、決勝が始まりました。春の全国大会王者・西條中(富山県代表)を相手に、序盤は一進一退の攻防を展開しますが、



同点の場面から一気に連打を食らい、徐々に西條ペースに。気が付けばリードが10点と広がり、11-21で前半を折り返しました。なんとか点差を詰めたい矢巾中でしたが、6点差まで詰め寄ったのがやっと。点の取り合いとなった終盤、後半の点数だけでは相手を上回りましたが、前半の得点差を埋めるには時すでに遅し。40-32というハイスコアゲームは、西條中に軍配が上がりました。この瞬間、西條中は春に続く2冠達成、矢巾中は岩手県勢として初の全国大会準優勝に輝きました。

今回の矢巾中、そして矢巾北中の躍進をみて、私編集長が個人的に感じたことがあります。それは、小学生のうちにハンドボールの魅力に触れることは大切だが、小学生時代に結果を出さなくても関係ない」ということです。今大会、岩手県代表チームの中心になったのは、矢巾フェニックスやリトルハンドでハンドボールを始めた選手たちでした。彼らは、小学生のうちにハンドボールの楽しさに触れ、中学校でもハンドボールを続ける道を選択してくれました。そして、楽しいからこそ厳しい練習を乗り越え、こうして全国大会の舞台に立ちました。しかし彼らが小学生の頃は、チェリーカップなどで関東の強豪チームに全く歯が立ちませんでした。全国小学生大会にも出ていません。けれども彼らは、目の前で素晴らしい躍進と結果を見せてくれました。彼らのおかげで、小学生指導者としての私の考え(思い)が確信に変わったと思います。

また、岩角大会事務局をはじめ、今大会の運営に関わった中体連の先生方、補助員の地元中学生たち、そしてハンドボール協会関係者の皆様に、心よりの感謝を申し上げます。本当にお疲れ様でした、ありがとうございました！

## 中学生新人戦地区大会では花巻中が男女ともに優勝！



新チームの発足から間もない9月20日、花巻中学校体育館にて、中学校新人戦花巻地区大会が開催されました。花巻中女子部・阿部史歩キャプテンの元気良い選手宣誓に続き、花巻中・花巻北中による公式戦2試合が行われました。

女子の試合は、花巻北中が藤沼さやか主将を中心に積極的に攻撃するものの、花巻中のDFをなかなか割ることができません。花巻中は「守って速攻」の得意のパターンが出始めると、相手に主導権を渡さず、前半だけで18-4と大きくリード。後半もそのペースは変わら

ず、花巻北中の左腕・小斎涼選手が右サイドから周り込んでシュートを決めるなど奮闘しますが、32-12で花巻中が勝利しました。

一方、男子の部は接戦となります。似内琢音キャプテンを中心に、1年生メンバーが主となった布陣で臨んだ花巻北中はテンポよく得点を重ね、13-11とリードしてハーフタイムに入ります。後半も、田中周斗選手(花巻クラブジュニアOB)の切り返しからのサイドシュートが高い確率で決まり、そのまま押し切るかと思われましたが、高めのDFでボールを奪って得点につなげた花巻中が終盤に逆転。最後は29-24で花巻中が優勝を手にしました。

県大会は10月17日~18日に開催されます。優勝チームは、春の全国中学生大会への出場権を得ることができます。1か月の鍛錬でどこまで成長するか、大いに期待したいと思います。



## 高校秋季大会では女子・花巻南が優勝！男子・花巻北も好発進☆

上記大会と時期を同じくして、高校生たちも新チームでの大会に挑んでいました。県新人戦のシード権をかけた第8回県高校秋季大会は、国体の関係で日程が急遽変更となったため、9月20日~21日に行われました。

男子1部は、不来方、花巻北、盛岡一、そして盛岡四が準決勝進出。高総体から3年生キャプテンが抜けただけの花巻北は順当に決勝に進出し、決勝では不来方高に惜敗したものの、2点差まで詰め寄る接戦。県大会では久々の優勝に手が届くかもしれない、そんな期待が大きく膨らみます。男子2部では、盛岡南高、花巻南高が圧倒的な強さをみせ、1部に返り咲き。いずれのチームも、上位争いに確実に絡んでくると思われます。混戦模様が予想される男子の部、勝つのはどのチームか？

女子の部は、不来方、花巻南、白百合、盛岡二高がベスト4進出。準決勝はどちらもロースコアの展開になりましたが、不来方と花巻南が、高総体に続き決勝で顔を合わせました。決勝では、12-8と前半リードした花巻南が点差を死守し20-18で勝利。高校秋季大会では初優勝を果たしました。ただ、県新人戦は来月初旬のわかやま国体終了後、国体を経て成長したメンバーが戻ってくる試合では、どのような展開になるのか、非常に楽しみです。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)  
2015年9月号  
2015年9月25日発行  
発行:花巻市ハンドボール協会